

# 暖かい床で 冬季も伸び伸びと暮らす



① 国立小諸療養所の入り口。緑が豊富で良好な環境にありますが、冬場はとくに重症心身病棟の患者さんたちにとっては厳しい寒さとなります

② 正面玄関をのぞむ。寒いときはマイナス18度を記録することもある。関東信越医務局の話では、体力が相当弱っている患者さんの場合は、特に肺が侵されやすく、暖房の種類によってはむしろ害になることもあるといいます

全国(北海道から九州まで)  
縦断ユーザーレポート

## 床暖房の家

“健康な住まいと暮らし”を実現する  
床暖房派が急増中

長野 / 国立小諸療養所

寝るべき患者さんは  
ポカポカ陽気に  
のんびり

小諸市の冬は、積雪は少ないですが寒さは大変厳しく、気温は例年零下10度前後です。床暖房の効果に注目した関東信越地方医務局管轄下の病院等施設への導入計画をすすめています。61年11月1日から、重症心身病棟のホールにはじめて、温水式の床暖房を入れました。

施設管理部の西田さんによると、平均年齢26歳くらいの入院患者さんたちは、日中、病室から出てホールに寝るべって過ごすことが多いので、まずこの部屋に床暖房を入れたとのこと。ホールを利用するのは七病棟東と七病棟西の合計70人の患者さん。同病院では健康維持のために夏から日光浴を積極的に奨励しています。「寒くなると部屋は閉め切りになるので、午前午後の2回換気をします。でも日当たりのいい日でないといつと寒いですからね。いつも天気は左右されるんです」と、過去の冬場の辛さを語るのは看護師さん。

主な暖房は温風暖房ですが、温度ムラがあるので患者さんの健康維持のために気を許せませんでした。「いつも交代で、温度をみながらこまめにスイッチを切り入れたりしましたね」患者さんたちは、日中、病室から出てホールに集います。年齢層は10歳以上から50代まで幅が広いので、看護上むずかしい面もあるとのこと。それだけに快適な環境が望まれていましたが、今では冬でも、ホールはポカポカ陽気となりました。「ふつうの暖房は室内の空気がかわくので風邪をひきやすくなるんですね。体力の弱い患者さんにとっては大敵です」こう語る看護師さんは、ホールの床暖房に期待を寄せています。

床暖房施工 / 富士プラント・アルコ  
(☎03東京348 3801)  
カメラ / 栗原宏光・宮下信治





③重症心身病棟のホール。冬はほとんど毎日、室内での生活になります。それだけに、病室を出て、この広いホールで過ごす時間は、とても貴重なふれあいの場です。ホール全体の床に、ポカポカと肌にやさしい温もりが伝わり、患者さんたちは快適な冬をはじめて過ごします



④ボイラー室内部。ホールの床下に配管されたパイプを還流するお湯の自然な温もりが、部屋全体を包みます。以前は床と天井の温度差は3、4度あったとのこと。温度ムラのない床暖房は省エネタイプです

⑤小諸療養所からは、床暖房にしてほしいという要望が、早くから関東信越医務局に寄せられていたとのこと。やっと61年の冬、ホールに導入され、ゆったりと患者さんがくつろいでいます







⑤ 広い遊戯室には床暖房が新設されました。左手に張り出したガラス張りの部屋は記録室です

⑥ リネン室



⑦ 遊戯室に隣接して左から休憩室、診察室、記録室が並びます





⑧ 遊戯室の見返し。正面には浴室、リネン室、便所が隣接しています



⑨ 便所にはセンサー（壁付き）が取り付けられ、人が通ると感知して自動的に水が流れます



⑩ 遊戯室の奥に続く病室。将来ここにも床暖房が入る予定です